

<協議題>

1 学校保健委員会

(1) 児童の実態について

ア 健康診断結果から(酒井養護教諭)

(資料に基づいて説明)

- ・ 令和3年度の県平均と比較して、身長は県平均以上が約67.3%、体重は県平均以上が約55.1%である。
- ・ 肥満度については、やせ傾向に該当する児童はいないが、肥満傾向に該当する児童は全体の1割を占める。
- ・ う歯のない(乳歯と永久歯)児童の割合は、全体の約3割を上回っている。
- ・ 玉津小学校では、令和3年度より全員にフッ化物洗口が始まり、歯の健康についての意識も高まりつつあるように見える。しかし、夏休み中は、昼の歯磨きができていない児童が目立った。
- ・ 裸眼視力においては、1.0未満の者の割合は34.7%である。
- ・ 長期休業中のゲーム機、スマートフォン、携帯電話等の使用については、学校生活のきまりとして、1日3時間、夜9時までとしている。
- ・ 欠席、出席停止状況において、5月はインフルエンザが流行し、児童の約半数が感染するなど、一番多い月となった。
- ・ 学校給食においては、将来の生活習慣病予防につなげるため、減塩に取り組んでいる。
- ・ 暑い日が多いため、暑さ指数、気温を測定し、外遊びに気を付けている。
- ・ 視力の低下や授業中の姿勢が悪い児童が気になる。今後の指導として、10月から月2回の「姿勢の日」を設け、自分の姿勢を振り返り、よい姿勢で学習する習慣を身に付けさせたい。
- ・ 家庭での勉強中の姿勢やSNS使用時の姿勢等に気を付けて、親子で目に対する意識を高めていただき、視力低下の予防につなげていきたい。

イ 新体力テストの結果から(中島教諭)

- ・ 運動特性バランスにおいては、全国平均より上回り、全体的にバランスよく運動能力が発達している。休み時間もよく外遊びをしている。
- ・ 長座体前屈は全国平均を下回っており、体育の授業でも柔軟を取り入れる。家庭でも行うように声掛けを行う。
- ・ 瞬発力を高めるために、体育の時間にウォーミングアップを取り入れていく。

(2) 医療の立場から

ア 学校歯科医より(宮谷信太郎先生)

- ・ ハイドロキシアパタイトがフッ素を塗布すると、フルオロアパタイトにかわり、むし歯になりにくくなる。フッ素が取り込まれると、歯が溶けにくくなる。

- ・ フッ素には、歯のカルシウムなどが溶け出す脱灰を抑制、カルシウムなどを取り込む再石灰化を促進する働きがあり、むし歯を効果的に予防できる。
 - ・ 玉津小学校でもフッ素洗口をしているが、効果を得るには6年程度かかるため、中学校でも実施するのが望ましい。
 - ・ 欧米では、フッ素洗口ではなく、水にフッ素を入れて飲んでいる。
 - ・ 砂糖で虫歯はできるので、お菓子を食べるとむし歯になる。
 - ・ 子どもの歯は、柔らかいので特にむし歯になりやすい。
 - ・ 歯磨きが重要で、毛先を歯の面にあて、鉛筆を持つような手で軽い力で小刻みに動かす。
 - ・ 特に夜の寝る前の歯磨きが重要である。
- ＜質問に対して＞
- 歯ブラシは固めはやめて、普通の固さが望ましい。
- 電動歯ブラシの使用は問題ではないが、きれいに磨ければ良い。
- 子どもは、正しい磨き方を身に付けることが重要である。

イ 保健師より（平山菜々子先生）

- ・ 愛媛県は高血圧が高い地域（収縮期血圧全国5位）となっている。宇和島は特に多く、（Ⅱ度以上高血圧県内2位）である。
- ・ 玉津地区の成人においては、市平均を下回るが、収縮期血圧は約半数の人が130以上となっている。
- ・ 令和3年度の小児生活習慣病予防検診において、玉津の児童は血圧が市平均を上回っている。
- ・ 成人の健診受診率は吉田地区トップで、高血圧の治療につながっている方も多くいる。
- ・ 予防するためには、野菜を意識して食べること。目標は1日350g以上である。
- ・ 玉津地区は、他の地域や全国と比べ、毎日お酒を飲む人や飲む量も多い。

2 前期学校評価（事務局）

(1) 確かな学力の定着と向上において

- ・ 一人1台の端末に教師も指導も慣れてきて、児童も高い評価となった。
- ・ 読書に対する意識が低い。本の購入や、毎週金曜日に15分間読書の日を作り、読書に対する関心や意欲を高まるように取り組む。

(2) 生徒指導の充実において

- ・ 児童の間では、仲間作りができた。
- ・ 規範意識の向上において、保護者、教師においては評価が低い。まず、スリッパは正しく整える。黙って集合することなどに取り組んでいく。

(3) その他

- ・ マチコミをもっとさかんに利用してほしいとの意見もあった。